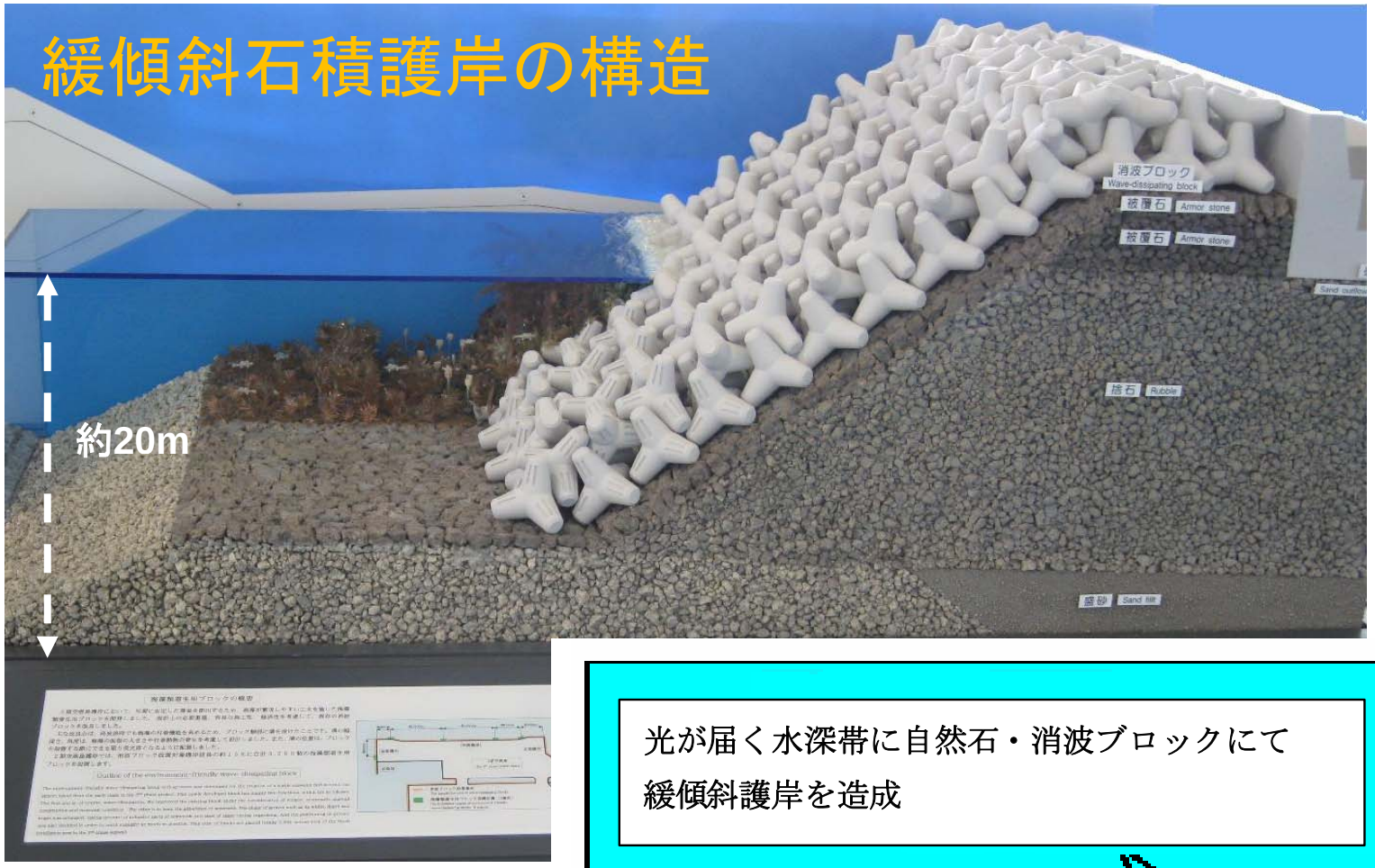
関西空港の藻場づくり
関西国際空港施設エンジニア(株)
小林　治久

大 阪 湾
関西国際空港
10 km
利用規約 (C)Yahoo Japan
luded(C)JAXA

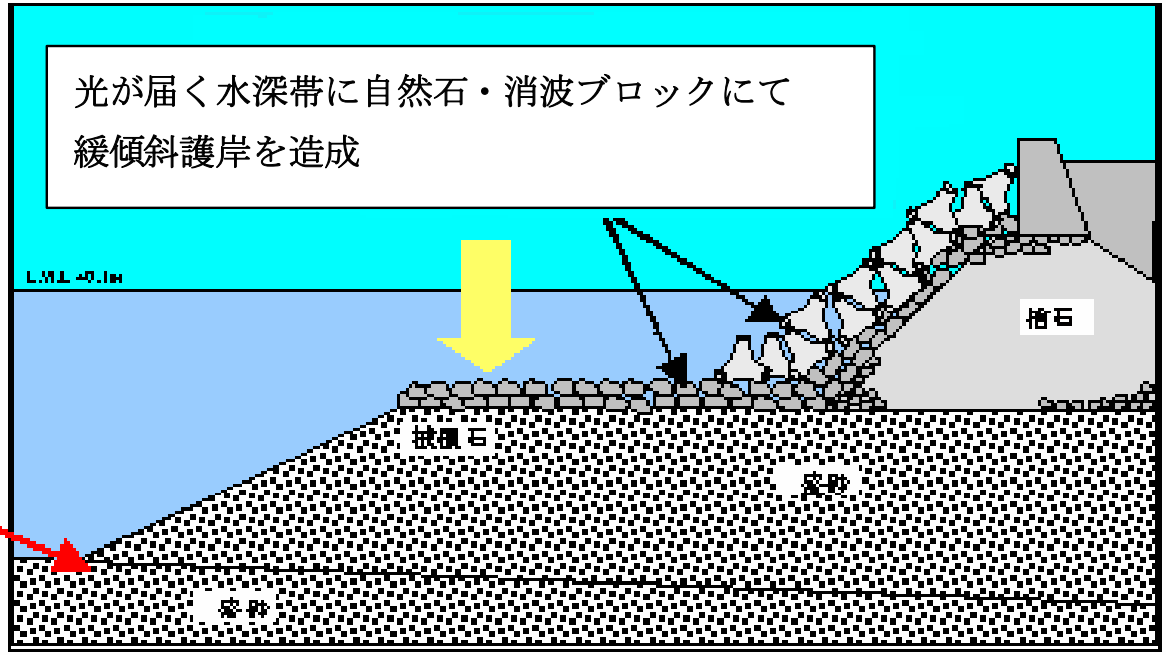
1987年(S62) 1月：1期工事着手
1994年(H 6) 9月：開港
1999年(H11) 7月：2期工事着手
2007年(H19) 8月：2期供用開始
沖合 約5km
1期空港島
約5km
2期空港島
約2.5km
・1期空港島：510ha　2期空港島：545ha　計1,055ha
・1期護岸延長：11km　2期護岸延長：13km　合計24km　内21kmが緩傾斜石積護岸（約9割）

緩傾斜石積護岸の構造



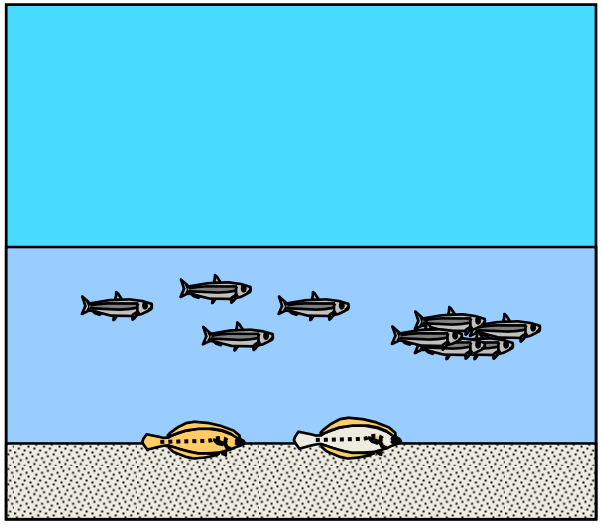
光が届く水深帯に自然石・消波ブロックにて
緩傾斜護岸を造成

光が届かない
砂泥の海底
(水深20m)



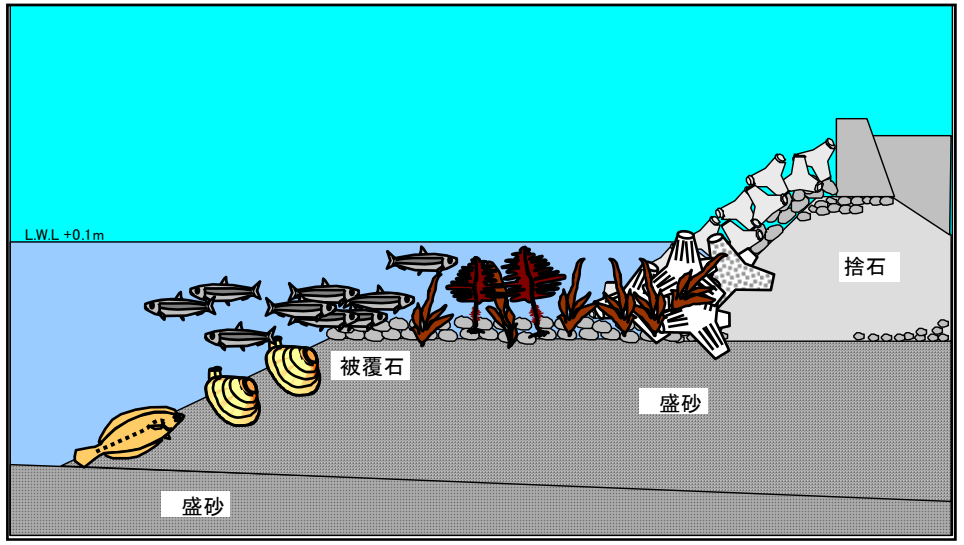
空港島の造成 ＝ 巨大な人工磯の創出

空港島造成前



砂泥質の海底

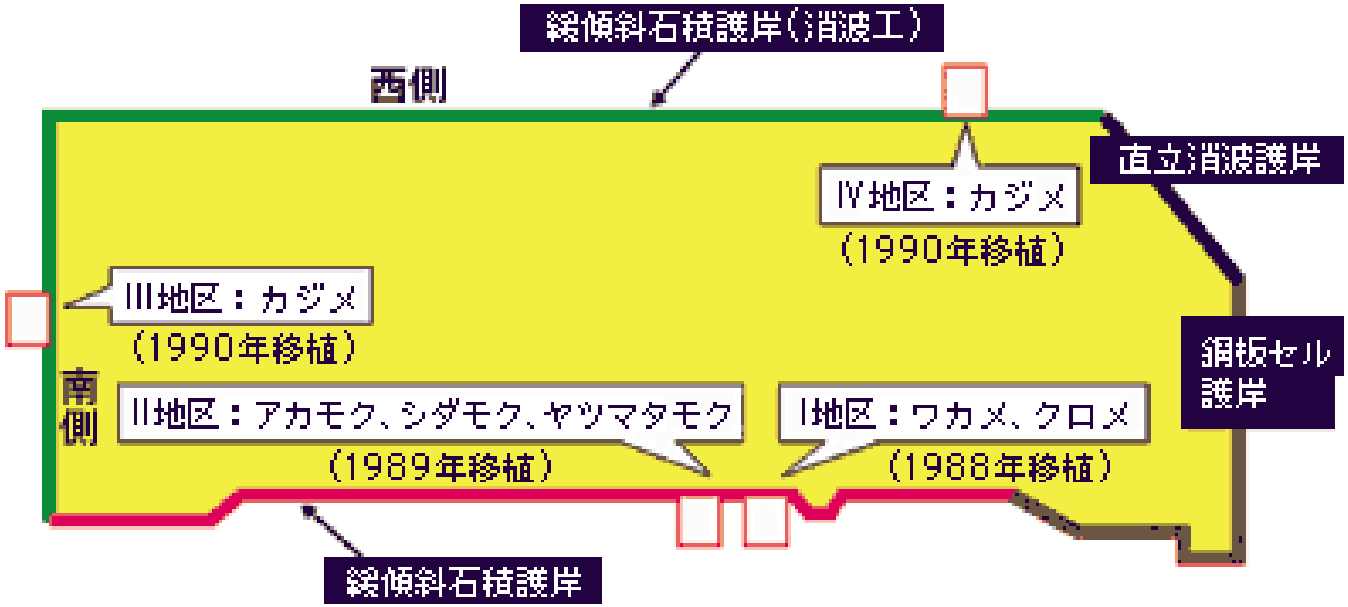
空港島造成後



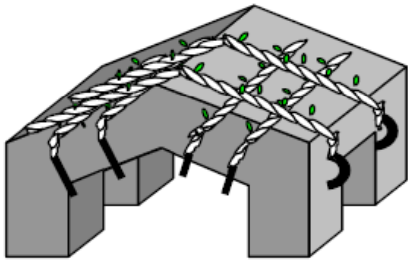
人工の磯が創出された

砂泥質の海底に造成された空港島は、まさに海藻などの生育に必要な光が届く人工の磯場となり、藻場を中心に多様な魚介類の生息が可能となりました。

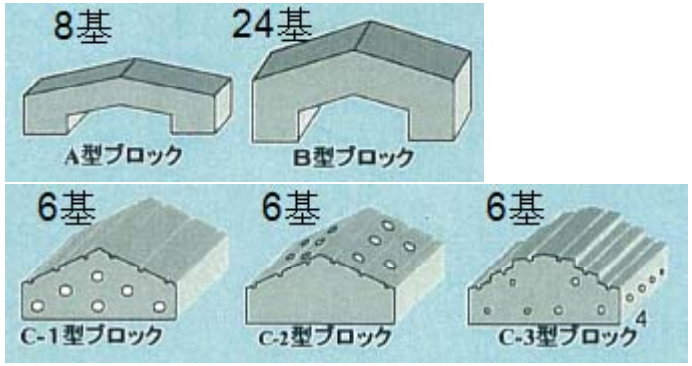
藻場造成の取り組み（1期空港島）

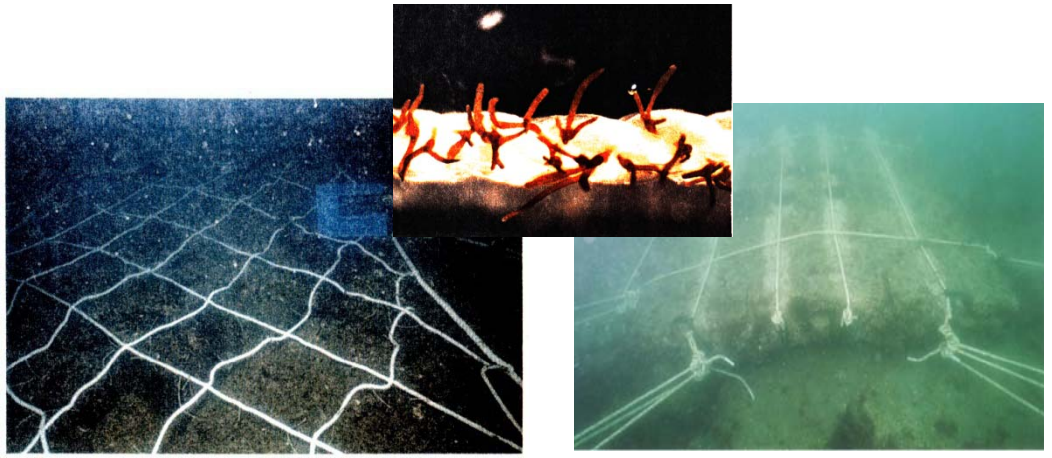


種ロープ取付



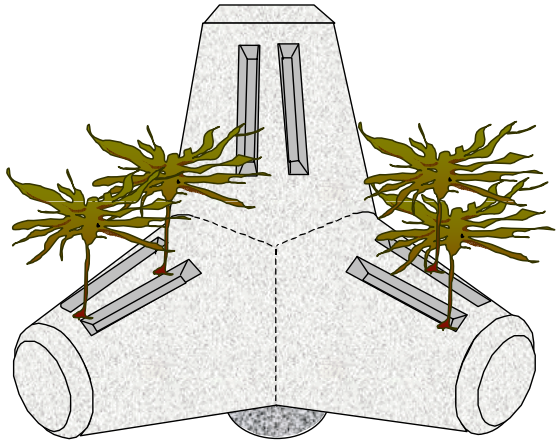
藻礁ブロック4ヶ所設置（2m×2m：50基）





藻場造成の取り組み（2期空港島①）

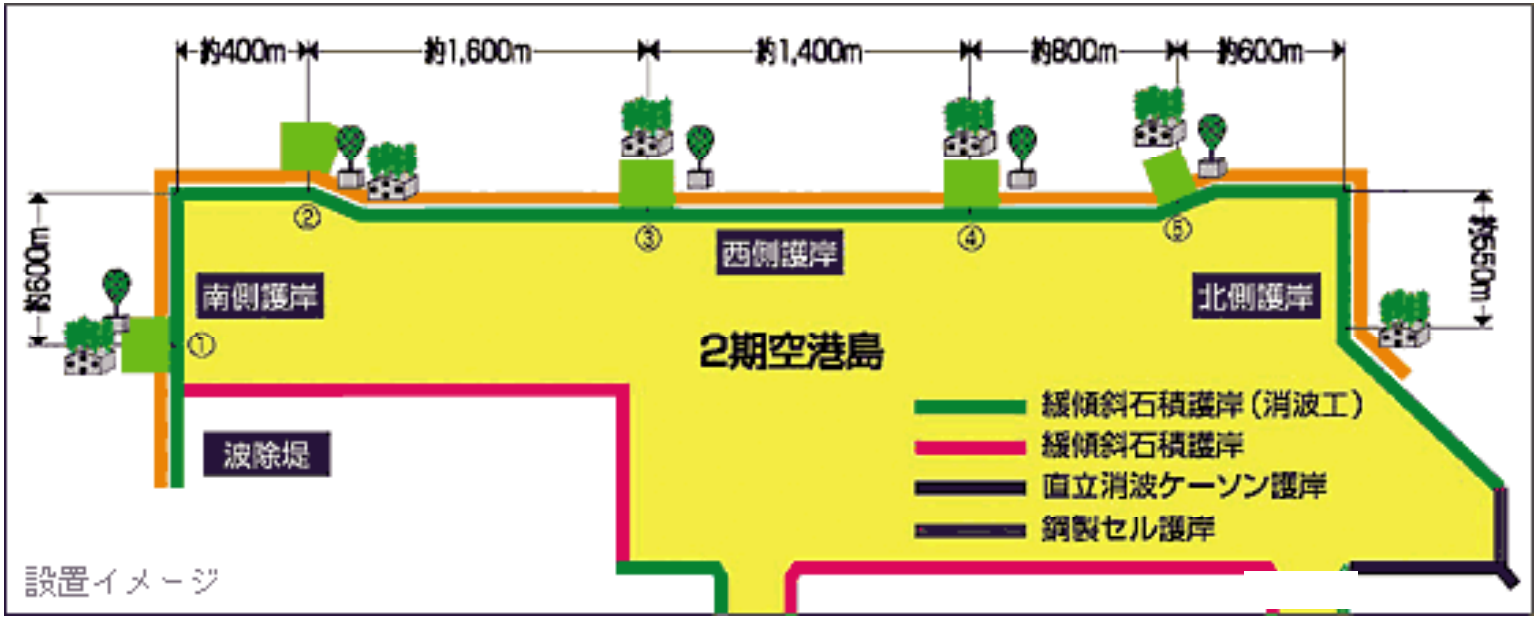
海藻類着生ブロックの考案（3,200個）：意匠登録済（H14年4月26日）

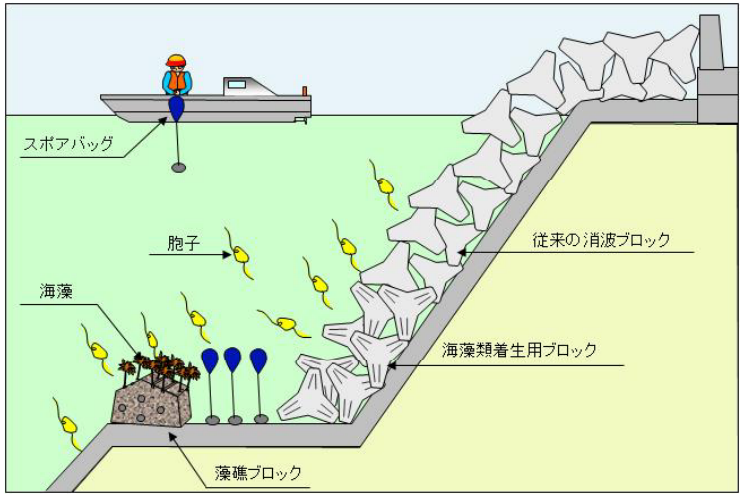


・藻礁ブロックの活用（18基移設）

・スポアバックによる種付け（250袋）

藻場造成の取り組み（2期空港島②）





藻場づくりのイメージ

- 海藻類着生ブロックの設置
- 藻礁ブロックの活用
- スポアバックによる種付け

代表的な海藻

ホンダワラ類（ガラモ場）

カジメ（カジメ場）

消波ブロックに繁茂する
ホンダワラ